

福島第一原子力発電所の状況(主なトピックス)

2014年5月
日本原子力産業協会

1. 沖合いでのモニタリング

港湾内の海水中放射性物質濃度は至近1ヶ月で有意な変動はなく、沖合いでの測定結果については、引き続き有意な変動は見られていない。

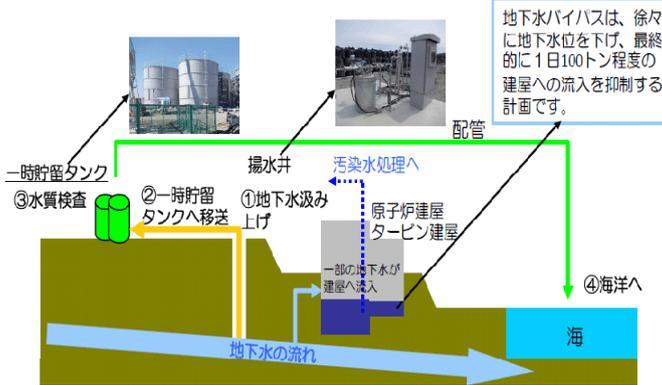
2. 汚染水対策

- 貯留タンクからの漏れいがたびたび発生するなど、タンク運用・管理の難しさを露呈しているものの、以下の2つの対策に着実な進展が見られる。

<地下水バイパス>

地元漁業協同組合などの了解が得られ、運用に向け、井戸からのくみ上げを実施中。
第3者機関による放射能濃度分析後に、運用予定。

- 地下水は発電所敷地内を山側から海側に流れており、毎日約400トンが建屋に流入しており、建屋よりも山側に掘った井戸で地下水をくみ上げ、建屋への流入量を減らす計画



<陸側遮水壁(凍土方式)>

現場における試験を開始。(2014年度中に凍結開始予定)
現在、規制委員会にて設置に関して審査中。

<海側遮水壁>

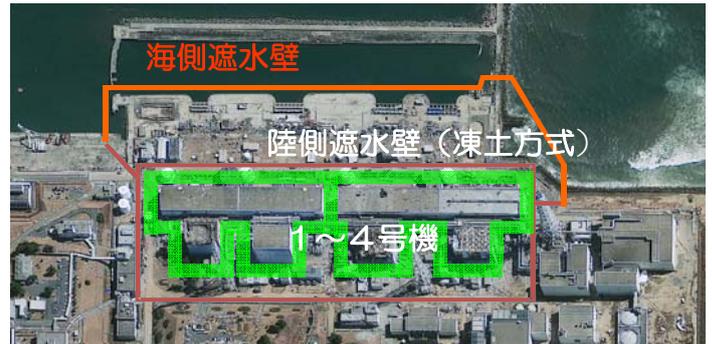
2014年9月に工事完了予定。

【海側】

- 万が一、建屋外に漏れいした場合も海洋汚染を防止するために、建屋の海側に鋼管矢板による遮水壁の設置を進めている。

【陸側】

- プラント全体を取り囲む陸側遮水壁を凍土方式で設置予定。
- 2015年上期の運用開始を目指す。



- その他、高温焼却炉設備建屋への地下水流入が考えられているトレンチの接続部などの止水を2014年4月に完了。100m³/日の地下水流入抑制につながると推定。

3. 4号機使用済燃料プールからの燃料搬出

2013年11月18日より、4号機原子炉建屋にある使用済燃料プールより燃料1,533体の取り出しを開始。約1年をかけて設備の健全性が確認された共用プールに移動する予定。

【移送実績(2014年5月7日時点(約53%))】

814/1533体(使用済燃料:792/1331体、新燃料:22/202体)



4. 国際協力

より安全で着実な廃炉作業に向けて、原子炉や廃棄物関連施設の廃止措置に取り組んでいる英国「セラフィールド社」と「福島第一廃炉推進カンパニー(2014年4月1日設置、増田尚宏CDO)」の間で、運営・技術面に関する情報交換を行うことで合意し、今後締結予定の情報交換協定の意義・目的を記載した協力声明に5月1日(ロンドン現地時間)、署名した。

